

ジャンボタニシの被害対策を実施しましょう

～次期作に向け収穫後にできる対策～

秋～冬はジャンボタニシが越冬(休眠)する時期なので、次期作に向け対策を実施しましょう。

特に、①～③の場所を重点的に対策し、効率的に駆除しましょう。

- ①今作で被害が大きかったほ場周辺、②土が柔らかく貝が潜りやすい場所
③道路や橋の下にある水路に泥がたまっている場所



水田ほ場内

●冬季耕起で、個体数を減らしましょう

厳寒期になったら、田んぼを耕起して貝を寒風にさらしましょう。

一言アドバイス

トラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転を速くすることで、貝を物理的に破砕することも期待できます。



稲刈り後のほ場にも多くの貝を確認

●均平施工で、次期作の浅水管理に備えましょう

レーザーレベラーでほ場を均平にし、次期作の浅水管理に向けた準備をしましょう。

一言アドバイス

ほ場内に凹凸があると、深水部が食害されやすいです。

●石灰窒素の散布は慎重に行いましょう(10～11月)

殺貝効果が期待できますが、魚毒性が高いため、使用にあたっては注意が必要です。

一言アドバイス

- ・収穫後に、水温が15℃以上あり、湛水ができるほ場において効果が期待できます。
- ・窒素を多く含むため、次期作の施肥量に注意が必要です。

水路

●落水後の集中駆除を行いましょう

被害が多い地域では、冬季における水路の泥上げ時などで積極的に駆除を行いましょう。



冬季における
水路での駆除活動



水が来ない排水路にも多くの貝を確認

一言アドバイス

水や泥が溜まる場所には、貝が集まりやすいので集中的・効率的な駆除ができます。

注意

貝や卵には素手で触らずに
手袋をしましょう

岐阜県 農政部 農産園芸課・農村振興課
(監修:岐阜大学応用生物科学部)

作成:令和3年10月